

10月1日から

# ごみ有料化がスタートします！

私たちの家庭から排出されるごみは、法的には一般廃棄物とされ、自治体はその処分の責任をもっています。浜頓別町のごみ処理については当初、燃やせるごみと燃やせないごみの2種類に分け処理を行っていましたが、生活スタイルの多様化によるごみの増加や容器包装リサイクル法の制定等により、平成10年から資源物の分別収集を開始して、リサイクルの推進とごみ減量化に取り組んできました。

また、昨年12月からは生ごみの分別収集が開始され、さらに細分化された分別が行われており、今後より一層の排出マナーの向上が求められます。

これらの経過や現状を踏まえ、検討を重ねた結果、昨年12月にごみ有料化を導入する方針を固めました。

ごみ有料化によって、経済原理がはたらき、なるべくごみを減量しようとする効果が見込まれます。そして、ごみの排出抑制に努力する人と無関心な人との負担が公平化されるなど、不均衡が解消されることにもつながります。

近年、ごみ有料化の動きは活発になっており、導入後には最高で33%ものごみの減量効果があった自治体もあるといわれています。

今後ますます深刻化が予想されるごみ問題。皆様のご理解とご協力をお願いします。



ごみの有料化って、お金はどこで払うのかしら？

お店で指定袋を買っていただきます。指定袋の価格は次のとおりです。



## ■指定袋の価格と種類（各10枚入）

燃やせるごみ用		燃やせないごみ用		資源物用	
30リットル	400円	30リットル	400円	30リットル	400円
45リットル	450円	45リットル	450円	45リットル	450円
60リットル	500円	60リットル	500円	60リットル	500円



ごみ袋に入らないものはどうするの？

大型ごみや、直接搬入するごみには証紙を貼って出してください。



## ■証紙の価格と種類（1枚の価格）

大型ごみ用証紙		
小	30円	最大の辺長が0.9m以下。総重量20kg以下
中	45円	最大の辺長が0.9mを超え1.5m以下。総重量20kgを超え50kg以下
大	50円	最大の辺長が1.5mを超え1.8m以下。総重量50kgを超え100kg以下
事業系量販店用証紙		
100kgまで	200円	随時、直接搬入する量販店向けとなります
10kg増ごと	20円	

●指定袋以外で出されたものは、10月1日以降は一切収集しません。特に公営住宅や町内会などで共同で利用しているごみステーションなどは、その管理者が責任を持って処理をしてください。

●ごみ・資源物を直接搬入する場合も、指定袋の使用または証紙の貼り付けをしてください。

●“危険ごみ”を収集に出す場合は、燃やせないごみ用の指定袋を使用し、マジックで“危険ごみ”と大きく分かるように記載してください。

●指定袋及び証紙の取扱店につきましては、決定次第お知らせします。

★問合せ 役場住民課環境生活係 ☎2-2345(内線112)



ゆうと  
**中村 悠人ちゃん**  
平成 14年 7月 23日 生まれ  
父～秀勝さん  
母～理恵さん  
住所～旭ヶ丘 6丁目



ゆうが  
**小口 優歌ちゃん**  
平成 14年 7月 20日 生まれ  
父～正一さん  
母～裕三子さん  
住所～豊牛



### 父から

健康にすくすくと育ててください。

### 母から

いたずらばかりで毎日目が離せないけど、元気が一番だもんね。これからも健康で、たくましい男の子になってください。

### (海の日になんで)

**父から** 海のむこうへ行ってみよう。

**母から** 海の中には何があるのかな。

**姉から** キラキラ光るたからもの見つけようね。

**兄から** 早くいっしょに泳ごう。



## 砂金掘りに用いられた方法 樋流し (といながし)

樋流しは、アメリカ式採取法とも言われ、明治33年5月に、アメリカのカリフォルニア州出身のユーゼン・スコイヤが北見枝幸において初めて実施した方法である。

砂金粒を砂礫から洗い出すのに木製の樋を使うのが特徴であり、そのため「樋流し」という日本名が付けられた。わが国の砂金掘り達は「トヨ流し」などとも呼んでいる。「樋流し」法では、含まれている砂金の量が多いところでは、砂礫を掘り上げてそのまま樋の中で流すのが普通であるが、そうでない場所ではあらかじめ、不必要な砂礫を流水の力や人の手で取り除き、砂金の含有率を高めてから砂礫を樋に流すという方法が取られる。砂金が含まれていそうな場所を見付けるとまず作業量や必要とする日数などを考慮して、それに応じた一定の広さに現場を設定する。砂金の含有率をあげるためにあらかじめ砂礫を処理する必要がある、近くの小川の上流から水を引くための水路をつくるのが最初の仕事で、水量の少ないところでは大量の砂礫を十分に洗ったり、泥や砂を遠くに流したりすることができないから、そのような場所では春の雪解け水を利用して調整される。水路によって導入された流水は、定められた区画全体に流れるように調整される。そして、カナテコやカッチャを用いながら、流れの下流側から砂礫層を切り崩す作業が始まる。このような作業が半日ほど続けられると、砂礫の量はしだいに少なくなり、砂クロームや砂鉄など比重の大きい鉱物の含有率が高くなってくる。これら現場に残った砂礫は砂金を含む率が高いので、砂金掘り達からは「金バラス」と呼ばれている。



▲樋流しに使用された樋